

平成 28 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：惑星物質科学のフロンティア

英文：Frontier of the planetary material science

研究代表者 大澤崇人（日本原子力研究開発機構）

参加研究者 学習院大学：助教・村上登志男

北海道大学：准教授・橋省吾、助教・馬上謙一

山形大学：教授・櫻井敏久、准教授・岩田尚能

国立極地研究所：助教・今柴直也、准教授・山口亮

東京海洋大学：教授・大橋英雄

東北大学：教授・大谷栄治・中村智樹

東京大学：准教授・三河内岳、特任研究員・吉田敬

九州大学：助教・岡崎隆司

茨城大学：教授・木村眞

大阪大学：教授・寺田健太郎、教授・佐々木晶、助教・橋爪光、助教・藪田ひかる、特任研究員・柴田裕実

大阪産業大学：准教授・茅原弘毅

京都大学：教授・土山明、准教授・伊藤正一

宇宙航空研究開発機構：助教・矢野創、開発員・矢田達、上相真之

産総研：研究員・中村良介

筑波大学：准教授・丸岡照幸

首都大学東京：教授・海老原充

熊本大学：准教授・尾上哲治

東京大学宇宙線研究所：教授・瀧田正人

研究成果概要

本活動は、平成 14 年度より継続する「地球外固体微粒子に関する総合研究」の拡張版であり、「地球外起源固体微粒子」に関する包括的・分野横断的な議論を行うことを目的としており、年度末に 1 泊 2 日の研究会を開催し、時間に制約を設けず、分野を超えた自由闊達な議論を行ってきた。本年の研究会では首都大学東京の海老原充副学長の退官記念講演を含む、異分野間の多岐にわたる報告が行われた。2 日間で延べ 28 名の参加者が、発表時間に拘束されることなく自由闊達な議論を行った。また昨年度から引き続き研究会の様子をビデオカメラで記録した。発表内容は近く HP にて公開予定である。

開催場所：東京大学宇宙線研究所（柏キャンパス） 6 階大会議室

3 月 30 日

13:30-14:10 早川岳人(量子科学技術研究開発機構)

始原的隕石中の Nb-92 と Tc-98 の痕跡と重力崩壊型超新星爆発

14:10-14:50 二村徳宏(日本スペースガード協会)

「タンデム惑星形成論を考慮した平衡凝縮論」

14:55-15:35 矢野創(ISAS)

ISS 搭載「たんぼぼ」ダスト捕集実験・初年度初期分析成果速報

15:35-16:15 矢野創(ISAS)

ダスト関連深宇宙探査ミッションの進捗：はやぶさ2運用とエクレウス開発

16:15-16:55 寺田健太郎(大阪大)

月周回衛星「かぐや」による地球起源酸素の観測

17:00-18:00 海老原充(首都大)：記念講演

18:00-18:20 ビジネスミーティング

3月31日(金)9:00-13:05

9:00-9:40 馬上謙一(北海道大)

NASA Genesis DOS 試料の He, Ne 深さ方向分析

10:30-11:10 土山 明(京都大)

3色(吸収一位相)トモグラフィーの開発と炭素質コンドライトの3次元構造への応用

11:10-11:50 ○中村智樹、大池里奈、畠山雅将(東北大)

南極 Taros Dome における宇宙塵回収作業と回収した宇宙塵の特徴

11:55-12:35 松田貴博(大阪大)

SNMSによる局所U-Pb分析の現状

12:35-13:15 河井洋輔(大阪大)

小型MULTUMによるガス測定の現状

整理番号 H01